

智頭町 智頭町 森林組合だより

令和元年 12月 No.26

☎689-1402 智頭町森林組合
鳥取県八頭郡智頭町大字智頭 1918 番地
TEL(0858)75-0075(代) FAX(0858)75-1192
木材加工センター
TEL(0858)75-0104 FAX(0858)75-1446

もじ ☆☆☆☆ CONTENTS



JForest

1. はたらくのりもの展
2. 令和元年度 推進員研修会を開催
3. 県・町・森林組合意見交換会／
智頭町の民生常任委員会との意見交換会
4. 智頭杉の森見学ツアーを開催／
木づかいの国とっとり 県産材PRイベント
5. SDGsの取り組みを！／安全衛生研修会の開催
6. 搬出間伐取り組み状況／皆伐・再造林に取り組もう！
7. 木材加工センターの動き／
地区座談会開催のお知らせ／理事会開催報告
8. 日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取 初開催／
林野庁太田次長間伐現地視察
9. 大規模災害と森林整備／
千代川流域森林フォーラムの開催について
10. インターンシップで林業体験／
チェンソーによる伐木等業務特別教育補講のご案内



認証材を使おう
環境に配慮した森づくり



智頭町森林組合 (0858) 75-0075
製材品は木材加工センター

はたらくのりもの展



消防音楽隊による演奏



林業機械に触れる親子



スタンプラリーを楽しむ子どもたち

本年も『第3回智頭町はたらくのりもの展』が、令和元年10月20日(日)智頭駅前周辺を会場に開催されました。町内外の多くの親子連れの方々が、普段近づけない機械や車に触れ楽しんでいました。

森林組合も林業機械を3台展示し、子どもたちが機械に乗り込んで興味を持って体験していました。また機械の作業中の写真も掲示しており、保護者の方も「この機械でこういう仕事をしているんだな！」などと興味を持っていただけました。

このイベントを通じて機械や林業について興味を持ち、次世代の林業の担い手になるきっかけに繋がればと期待しています。

令和元年度 推進員研修会を開催

以前は隔年開催であった推進員研修会を皆様の要望を受け、平成29年度から毎年開催することとし、今年度は9月11日（水）に開催しました。

当日は、まだ残暑厳しい日となりましたが、地区推進員を始め関係者の方々40名の参加を頂きました。

最初に、間伐作業完了地の智頭町口宇波コオイダニ団地で、県内ではドローンに最も精通しているといわれている鳥取県林業試験場の山増上席研究員による「ドローンによる航空実証」ということで事前撮影の航空写真を見ながら説明をお聞きし、その後実際にドローンを操縦して頂き、空から映し出される映像に興味津々で多くの質問もいただきました。

今回の研修では、近年活用方法が検討されるドローンのほんの一部ではありますが実際撮影の様子を見学させていただき、今後智頭町においても山林調査等、災害時等に活用を期待され、森林組合も購入を検討したいと思っております。

次に鳥取市広岡の鳥取県東部森林組合の早生樹センダンの植栽地を見学し、2年前植栽後の手入れ状況等、嶋沢組合長より丁寧な説明を受けました。センダンの成長具合、雪害の懸念、材の用途など、熱心に質問される姿が多数見受けられました。

推進員さんの中には、センダンを植えてみようかと前向きな意向を持っておられました。

2か所の研修終了後の恒例となっている親睦会では、推進員の皆様との交流とともに推進員研修会の内容、作業道開設の要望など伺いましたので、今後の業務の参考にさせていただきたいと思っています。

また、今後もこのような研修会を開催し、皆様との交流を深めるとともに、森林、林業、森林組合事業へ理解を深めていただけたらと思います。



智頭町口宇波の現場より林業試験場の方から説明を受ける



植栽後2年経過したセンダン植栽地見学

県・町・森林組合意見交換会

令和元年8月6日(火)に森林組合研修室にて、事業の取り組みや新しい林業ビジョンなどについて、意見交換を行いました。

組合からのテーマとして、昨年の豪雨災害の復旧・復興状況や造林事業執行の課題点、今年度の間伐計画と皆伐再造林の方向性。さらに、森林管理経営法が今年4月より施行され、新たな森林管理システムについての具体的対応や他町での進捗状況などの情報交換が行われました。本町でも西宇塚地区の2林班について、新たな森林管理制度に基づく意向調査に取り組むこととなっています。

また、組合の活動方針や加工センター製材品の国内外への販売促進などの情報提供をさせていただき、業界を取り巻く課題として、需要の拡大、労働者不足、皆伐再造林への展開や出口対策など、これからの林業をより良いものにしていくための議論を深めることができました。



これからの林業について協議

智頭町の民生常任委員会との意見交換会

令和元年10月3日(木)に森林組合研修室にて、民生常任委員会の皆様とこれからのスマート林業の取り組みや智頭林業の現状と課題などについて、意見交換を行いました。

これからの林業の生産性を高めていくためにも生産コストを管理縮減していくうえでも今後、利活用の普及が見込まれる航空レーザによる森林資源情報、ドローンの活用、その他のICT技術の活用が、必要な情報化時代に入ってきました。

また、災害時でのこのような技術の活用方法なども意見として挙げられ、智頭林業の持続的な森林経営として、これからの注目となる取り組みとなってきます。

また、河村常任委員長よりこれからも情報交換の場をもって、連携を執っていきたいとのご意見もあり、組合としても生産性の向上や雇用の確保など努めてまいります。



現状と課題について協議



智頭杉の森見学ツアーを開催

今年も10月26日に智頭杉の森見学ツアーを開催しました。親子連れ、ご夫婦など10人の参加がありました。子供たちの参加が多かったため、森のせせらぎでのサワガニとり、キノコ採り（すぎひら：今は食べられないが・・・）など、森に触れる楽しいツアーとなりました。

森林見学は那岐地区と山郷地区の2箇所の森林で、智頭杉の生育環境や山の状況、現在の木材価格などを興味深く見学し、率直な質問も多くされていました。

また、実際に智頭杉をふんだんに使っている新築住宅を見学していただき、家の中に入って智頭杉の良さ、ぬくもりを実感していただきました。

その後木工体験で、智頭杉を使った簡単なイスの作成を行い、実際に智頭杉に触れて、改めてその良さを実感していただきました。子供たちも金づちを使い楽しんでくれていました。なお、自分で作成したイスは持ち帰っていただきました。

担当者としては、ツアーが子どもには退屈ではと心配していましたが、普段行ったことのない森林に興奮し、慣れない木工体験に悪戦苦闘しながらも満喫した様子でした。

参加者の方からは、「すごく濃厚で充実したツアーだった。また参加したい。」「智頭杉の魅力を改めて知ることができた。」「ツアーをもっと情報発信されたら。」などの声をいただきました。

今後は、森林組合のホームページ、SNS等で情報を流しながら取り組んでいきたいと考えております。多くの参加をお願いいたします。



木づかいの国とっとり 県産材 PR イベント

10月26日（土）に米子イオンモール日吉津にて「木づかいの国とっとりを実現する会」の県産材のPRイベントが開催されました。

イベントでは、「心地よい木材にふれて鳥取で子育てをしよう！」という目的で、若い世代の方に、実際に県産材の木で作った杉板の上に座ってもらい、お子様にはコースター作りや木の玩具で自由に遊んでもらい、スタッフから木の良さの説明や、大画面テレビで製材の様子などのテープを上映し、木の良さを体感してもらい、多数の方に楽しい時間を過ごしていただきました。

また、来年も鳥取県内で開催予定ですので是非イベントに参加してみてください。



SDGs (持続可能な開発目標)の取組を！

SDGsは、2015年9月の国連サミットの中で世界のリーダーによって決められた人間、地球及び繁栄のための行動計画として、国際社会共通の目標です。

17の目標があり、世界をより良く変えるためのマスタープランといえます。

智頭町は1/0村おこし運動や百人委員会による住民自治の取組みなどが認められ「SDGs 未来都市」に選定されています。

約93%が森林の智頭町では、間伐面積は年々増加しているものの、まだ手入れ不足の森林も多く、皆伐再造林の進んでいないことから、森林の有する多面的機能の発揮に向けて、持続可能な森林の管理・経営がさらに重要となっております。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



安全衛生研修会の開催

令和元年10月18日（金）に、現地研修と座学による安全研修会を開催しました。

現地研修では石谷林業木材市場の第51回記念市を見学し、大径材の造材方法、現在の木材価格等を学びました。

現業作業員からは大径材の根株をどれだけ付けるか？の質問、以前に比べれば、並材、大径材ともに価格が下落しているとの感想が有りました。

次に安全作業の取組について、全国の林業災害事例等報告し事例を共有することにより、事故防止に努める認識を新たにしたところです。

また、鳥取県林業災害防止連絡協議会の林業安全パトロールが智頭町森林組合の現地で実施（9月25日）された概要を報告しました。

そのポイントは①伐倒後の退避場所を適切に設定し、退避路上の切り株等の障害物を取除くこと。②巻きついているツル等は事前に処理を行うなど安全作業の手順を順守すること などであります。

森林組合の今年の現場作業キーワードは「安全作業と基本動作」であり、更に安全第一で災害防止に取り組んでまいります。



石谷林業での市場見学



安全研修

搬出間伐取り組み状況

智頭町森林組合では、智頭町より認定を受けた森林経営計画団地を主に、スギ、ヒノキの搬出間伐を行っています。本年度9月時においては、林産事業としての取扱材積9,948m³（昨年同時期8,539m³）としており、森林所有者の方からのご要望にお応えできるよう事業を進めています。事業地については、現地調査を行った上で、集約的に施業ができるよう施行地の選定を行っておりますので、団地担当者が施業に関するご提案をお願いした際には、皆様方のご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

高性能林業機械を使用した搬出間伐の取り組み



グラップルによる集材



ハーベスタによる造材

皆伐・再造林に取り組もう！

平成30年度の鳥取県千代川流域における原木の素材取扱量は96,900m³となっています。鳥取県では、森林林業のモデル構想の中で、令和4年度素材生産量の目標としている20万m³の達成に向けて、取り組みを進めています。

そのような中、智頭町森林組合では主に、壮林齢のスギ、ヒノキの搬出間伐を行っていますが、高林齢の主伐を行い、再造林を行う循環型林業への切り替えを視野にいれながら、目標達成に向け、森林整備に取り組んで参ります。

鹿児島県曾於市森林組合（研修先）の主伐・再造林の取り組み状況



主伐（皆伐）作業状況



再造林（スギ）実施後

木材加工センターの動き

【韓国輸出・県外大型物件受注】

県産材の利用促進を進めていく中で、韓国への製品輸出が検討され大手の会社を中心に取引を実施し智頭杉で破風板、耳付き材約7m³が海を渡りました。

今後、価格、規格など生産できるコストが十分あえば期待できると思います。

智頭材のブランド化と販路拡大に積極的に取り組む中で、今年の12月に大型物件を受注し今年10月末で納材を完了しました。智頭材の良さを表した造作物など仕上がれば見事なことと思います。来年6月には完成式典が行われる様です。

【オリパラ選手村に智頭材を提供】

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの選手村ビレッジプラザに智頭材を提供しました。これは各自治体より提供する木材を使用し、日本の木造文化を感じてもらえるように計画されたものです。

森林組合は智頭町より業務委託を受け智頭杉（105角、長さ3.6m、75本）木材量3m³を仕様書に基づき厳しい検査、管理を受け7月に納材しました。

地区座談会開催のお知らせ

新春恒例の地区座談会を次の日程で開催します。

座談会では、森林組合の業務内容、林業を取り巻く動向、行政（国・県・町）の林業施策等について説明させていただくと共に意見交換を予定しております。お誘い合わせの上、多くの組合員のご参加をお待ちしております。

（なお、参加の方には粗品を準備致します。）

日	時	地区	会場
令和2年2月4日（火）	9:30～	富沢	富沢公民館
令和2年2月4日（火）	13:30～	智頭	智頭町保健・医療・福祉総合センターほのぼの
令和2年2月6日（木）	9:30～	山形	山形第一地区公民館
令和2年2月6日（木）	13:30～	土師	土師公民館（旧土師小学校）
令和2年2月7日（金）	9:30～	山郷	山郷公民館（旧山郷小学校）
令和2年2月12日（水）	13:30～	那岐	那岐公民館（旧那岐小学校）

理事会開催報告

第2回理事会 令和元年7月22日

{協議事項}

- ① 役員賠償責任保険の加入について
- ② 従業員業務災害補償保険の加入について
- ③ 推進員研修会について
- ④ 6月末残高試算表について
- ⑤ 組合監査指摘事項の措置方針について

第3回理事会 令和元年10月23日

{協議事項}

- ① 令和元年度上半期の仮決算について
- ② 令和元年度下半期の計画について
- ③ 固定資産処分について
- ④ 令和2年度林業予算の要望について

日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取 初開催

令和元年11月9日（土）、10日（日）鳥取砂丘オアシス広場にて日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取が開催されました。全国大会である「日本伐木チャンピオンシップ（Japan Logging Championships）」は2年に1度、青森県で開催されています。

青森大会参加の選手達から「鳥取県においても同様の全国大会を開催し、林業を盛り上げていきたい」と声上がり、大会実行委員会が組織され開催することとなりました。

プロフェッショナルクラス、ビギナークラスにクラスを分け5種目（伐倒・丸太合わせ輪切り・設置丸太輪切り・枝払い・ソーチェン着脱）の得点で技が競われました。

智頭町からは、赤堀宗範さんがビギナークラスで2位入賞と健闘されました。飲食ブースや、子どもたちが楽しむことができるチャレンジコーナーの開催等もあり、多くの方でにぎわいました。



林野庁太田次長 間伐現地視察

令和元年11月8日（金）林野庁の太田豊彦次長が智頭町尾見地区の搬出間伐現地を視察されました。11月9日～10日にかけて開催の「日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取」に参加される一連の行程の中で、智頭の現場を見ていただいたものです。

非常に急峻な現場で、27才という若い芦田班長率いる3名の作業員が、ハーベスター、グラップル、フォワーダを使い間伐に取り組んでいる状況を見ていただきました。若手の現場作業員に対する期待と激励、何よりも安全にお願いしますと励ましていただきました。



大規模災害と森林整備

昨年の智頭町などでの西日本豪雨災害、今年になってから千葉県を中心とする台風15号、東日本を中心に各地を襲った台風19号災害など、被害が激甚かつ広域化しています。

その要因として挙げられるのが、地球温暖化による海水温度の上昇と言われており、今後も想定を超える豪雨や甚大な被害が発生する懸念があります。

森林崩壊による災害、森林からの土石流、立木の溝腐病による風倒木被害等は国土の強靱化、森林管理の適正化により、事前防災、減災に一丸となって取り組む必要があります。

治山・治水が国を治める基本とも言われ、間伐をはじめとする森林整備もますます重要となっております。

10月東京で開催された全国森林組合代表者大会でも、9月に就任されたばかりの江藤拓農林水産大臣は、治山・森林整備に補正予算等でしっかり対応していく決意を表明されていました。森林組合はこのような観点からも関係機関と協調しながら力一杯取り組んでまいります。



台風19号による災害状況



復旧工事完了後（ダム）

千代川流域森林フォーラムの開催について

令和2年1月13日（月）12時から16時まで、公立鳥取環境大学にて『千代川流域森林フォーラム』が開催されます。

岡山県の株式会社百森 共同代表 田畑氏を招き講演会を開くほか、森林・林業教室や高性能林業機械（ハーベスタ）の実演など子供から大人まで楽しめるイベントも併催されます。

参加費は無料ですので、ぜひお越しください。



インターンシップで林業体験

本年度も智頭農林高等学校より森林科学科2年生2名が、10月15日から18日の4日間職場体験を行いました。

研修期間中はあいにく雨天でありましたが、山現場では危険性のない範囲で木材集材搬出作業や、また加工センターでは、四面自動かん盤を使ったモルダー加工、栈積み作業を体験学習しました。

体験した農林高生の感想は、「普段経験することが少ない作業であり楽しかったが、一方で体力、集中力、適格な行動力が必要と感じた。社会に出た時には周りの人たちと協力しながら仕事に取り組みたい。また、この研修で得たことを進路に役立てたい」との事でありました。森林組合としては、この研修を通じて卒業時の進路は林業関係の仕事についてもらいたいと考えております。

チェーンソーで
造材作業中



チェーンソーによる伐木等業務特別教育補講のご案内

＜チェーンソーを用いて行う伐木等の業務に係る特別教育を受け

終了証をお持ちの皆様へ＞

平成31年2月12日に労働安全衛生規則の一部が改正され、伐木等の業務にかかる特別教育の教育時間が変更となりました。

このため従来の特別教育を終了されている方も、令和2年7月までに、伐木等の業務特別教育の補講を受講されないと、令和2年8月よりチェーンソーを用いた伐木等作業につくことが出来なくなりますので、ご注意下さい！！

【補講の日程】

令和2年1月15日（水）午後1時30分～

場所：智頭町総合センターにて

☆詳しい申し込み問い合わせについては、
〒680-0874 鳥取市叶122西垣ビル3号室
鳥取県木材協同組合連合会内
林業・木材製造業労働災害防止協会
鳥取県支部 平野さんへお願いします。
TEL 0857-30-5490

